

福祉医療協の歴史とこれから ⑦⑥

帯広協会病院のあゆみとこれから

社会福祉法人 北海道社会事業協会 帯広病院
院長 吉田 一郎

1. はじめに

北海道社会事業協会は、大正11年7月、昭和天皇（当時皇太子殿下）がご来道の折、社会福祉振興のためご下賜された5,000円を基とし、財団法人北海道社会事業協会として発足しました。

現在は、社会福祉法人として北海道内に函館、小樽、余市、岩内、帯広、富良野、洞爺と七つの病院と母子生活支援施設、保育所、介護老人保健施設、看護専門学校などを設置運営し、地域の医療、保健、福祉サービスを行っています。

北海道社会事業協会帯広病院は「十勝・帯広に必要な医療機関であり続ける」という理念の基に地域に根ざした医療を行っています。



2. 沿革

- 昭和12年12月 財団法人 北海道社会事業協会附属帯広病院を開設
- 昭和27年5月 社会福祉法人 北海道社会事業協会帯広病院と改称
- 昭和38年10月 総合病院認可
- 昭和47年7月 看護婦養成所（2科）すずらん高等看護学院設置認可
- 平成4年4月 帯広すずらん高等看護学院を北海道社会事業協会看護学校と改称し本部事務局 直轄にする
- 平成11年4月 診療科目に消化器科、循環器科、呼吸器科、リウマチ科、リハビリテーション科を新設
- 平成12年3月 十勝第二次保健医療福祉圏の地域センター病院として指定を受ける
- 平成13年10月 地域主産機母子医療センターの認可を受ける
- 平成15年10月 臨床研修病院の指定を受ける

- 平成17年10月 泌尿器科 新設
- 平成27年1月 スポーツ医学・心臓リハビリテーションセンター開設
- 平成23年8月 総合診療科 新設
- 平成28年4月 病理診断科 新設、北海道がん診療提携指定病院の指定を受ける
- 令和2年4月 腫瘍内科 新設

3. 病院の概要

病床数：300床

診療科：総合診療科

消化器内科

循環器内科

呼吸器内科

外科

整形外科

小児科

産婦人科

耳鼻咽喉科

眼科

麻酔科

泌尿器科

病理診断科

腫瘍内科

4. 病院の理念と基本方針

～北海道社会事業協会の理念～

私どもは医療、保健、福祉の従業者として力を合わせ、心のこもった医療、看護、介護の実践に努めます。

～帯広病院の理念～

十勝・帯広に必要な医療機関であり続ける

帯広病院の基本指針

- ・地域の中核となる病院を目指します
- ・あたたかな療養環境を提供し、患者中心の医療に努めます
- ・チーム医療を推進し、安全な医療の充実に努めます
- ・職員が働きやすい環境、業務体制を確立します
- ・専門職業人として常に研鑽し、医療の向上に努めます
- ・次世代を担う医療従事者の育成に努めます

5. 近年の取り組み

令和元年からの新型コロナウイルス感染症の流行より、当院においても感染防止と通常診療に尽力してまいりました。日々増加する新型コロナウイルス感染症の入院患者さまへの対応として、一般病棟を改装し陰圧空調システムを備えた感染

症病棟を運営していました。

令和5年10月からは新型コロナウイルス感染症病棟は一般病棟に転換し、一般病棟での陰圧病床の完備や医療スタッフへの感染対策の習熟により感染拡大を防止しながら通常の診療体制を行っています。コロナ禍では制限されていた面会も再開し、患者さまとご家族が安心して入院生活を送れるよう支援しています。

3年以上の新型コロナウイルス感染症の経験の中で強く感じたことは、当院が十勝医療圏から二次救急体制を含めた急性期医療への対応を求められていることでした。

そのため、日中の救急患者さまを幅広く受け入れられるよう救急処置室の拡大と、総合診療科医を中心にした診療体制の整備を行いました。

また、腫瘍内科を中心とした化学療法、緩和医療、訪問診療など地域のニーズに応えられるよう取り組みを行っています。

6. 今後の福祉医療実践の方向性

高度な急性期医療が求められる一方で、治療終了後の患者さまが地域で生活できるための支援が課題となっています。十勝にお住いの患者さまの医療と暮らしを支えられるよう、医療機関をはじめとした地域との顔の見える連携に努めていきます。

また、経済的、社会的困難を抱えている方が気軽に相談でき、療養生活を送ることができるための支援にも力を入れていきたいと思っています。



帯広協会病院の外観